多元横浜読書会　　24－61－831

清水　淹（ひさし）

＜今回＞35142回目　2024年62月17日（5日（月）14時～17時　6011会議室

　読書は10冊目「失われた九州王朝」 再読朝日文庫　p576510、補章両者は対等位置　九州王朝の検証より

＜前回＞3504回1回目（24－61－3）29）出席者99名

資料1）（2－－3－1）第3499回（24－61－329）のまとめ（清水）

2）孝徳天皇王朝説（清水）

3）日本の名の起こり（清水）

4）日程表（11月まで）月曜日、午後2時から5時までは変わらず。

資料2）百済人祢氏の墓碑銘（気賀沢、岩田、清水）

資料3）隅田八幡神社鏡銘（古田、榛葉）

資料4）朝日新聞1月24日れきし歩き岩戸山古墳（高木）

書式変更: インデント : 最初の行 : 0 字

書式変更: インデント : 最初の行 : 4 字

A 報告　金曜古代史 web 会議の5月31日は、「孝徳王朝説」をやってほしいと言われたので、「日本の名の起こり」と共に受けました。今回2つを資料として配布しました。金曜webで服部氏が藤原不比等の過大評価説に疑問を呈する発表があった。各種資料を用いて、説得性が高い発表であった。私は「多胡碑」に不比等の名前が出ていると質問した。いろんな資料から関西の服部氏が不比等の権力基盤についての考察が論理的だったのを受けて質問した。多胡碑については後日丁寧な紹介を受けた。「羊」は周囲が郡司に任命されたのを疑問視しているのを、打ち消すために、上位3名の最下位（第3位）の不比等の名を出したのは、中央政界で最大の実力者と評価されていたのではないかという意味で質問した。

B資料　今回は新しい日程表と金曜 WEB で発表した原稿を配布します。この会では、すでに大要は報告済。料 2）その席上、配布を受けた、「百済祢軍墓碑銘」の解読状況が解説されていたので紹介した。発見当時、古代「日本」の呼称の最古の金石文と云う報道があった。が祢軍は白村江の占領軍の一員として日本書紀に

書式変更: インデント : 左　0.16 字, 最初の行 : 0 字

書式変更: インデント : 左 : 0 mm, 最初の行 : 0 字

も名前が出ている。弟の墓碑は西安から出ていて北京博物館に現在保管されているという。扶桑の文字もある。660年百済が滅亡した時に唐に降伏して、唐の下級将軍として、活躍した。出所は北京の古物商から、拓本として出てきたもの、解読の様子が書いてある。最初の公表は2012年3月である。明治大学の気賀澤氏が発表した。朝鮮の軍将が一族、内陸の西安に墓標があると言うのは、朝鮮問題が片付いて、内陸地の兵隊の長に任命されていたのではないと推定される。封禅の儀の倭国酋長は誰であったか、サチヤマか。

3）榛葉氏より、隅田八幡神社の順佛画像鏡の解読の原史量として配布された。左文、読み方などの参考になる。皆で画像を透かして見て、左文の意味を味わった。丁度今、読書している最中である。

4）高木氏が朝日新聞24日の記事を紹介してくれた。新聞記者の文章は巧く現状をまとめている。磐井について岩戸山古墳が彼の墳墓と確定された経緯や、別区の裁判制度の評価など、話題になった。更に古田先生は何故「磐井継体戦争はなかった」論に変更されたか、調べることになった。

C

C 読書　朝日文庫版:p569506、、九州王朝の検証9行目、なお井上光貞は　から

~~(1)~~　1)20年の冒険　本書、「失われた九州王朝」を世に出して、20年経った。~~隅田八幡神社の人物画像鏡の読み方について、水野裕の説に賛同したが、日十を八月十日の意味に採った。理由は「倭の五王」を日本書紀の允恭にして、癸未年は443年とした。忍坂之大中津比売を意柴沙加宮とした。「寿」は「泰」である。①字形判定―左右対称に近い。奉か泰の左文か、直後の「遣」は左文である。(左文とは裏返しにした文字の用法、刻むのは困難、左右逆になる。)②対等の論理、従来説は大王・男弟王＝天皇、斯麻を配下の人物に当てていた。③「遣」の用例を多数出している。遣(使者)＋敬語(奉、朝、献)の動詞。この鏡の場合は取、作の動詞で敬語表現がない。高橋健自氏は念長寿を年長奉と判読して一を奉ると読解した。(在銘最古日本鏡大正3年)がこのような文型は存在しない。敬語は遣の下に来る文例を上げた。~~大冒険だった。天皇家中心の一元史観のイデオロギーは1200年間信奉された。大江匡房、慈円、新井白石、田口卯吉も一片の疑義さえ呈していない。このイデオロギーは学問的には一個の仮説である。明治以降の諸賢大家とも指摘する事がなかった。

2)これに対して私古田は、一矢を放った。イデオロギーではなく、人間の当たり前の理性にだけ、依拠する立場からである。中国史書群に相対した時、これまでの歴史素養がガラガラと崩れ落ちる、その声を確かに聴いたのである。学問だからである。

3)多くのリトマス試験紙、稲荷山鉄剣黄金銘文の出土、高句麗好太王碑の実見、天皇陵問題、私の仮説は正しかったか。その判定は読者の方に委ねられている。

4)政、悰、満の法則　張政の長期滞在は第一書で論じた。郭務悰のたびたびの訪問、阿部の仲麻呂の長期滞在、唐の高級官僚として生涯を閉じた。この二人の体験が、旧唐書に示されている。倭国と日本国の書きわけだ。白村江当時の直接報告なのだ。

5)従来の我が国の歴史界は、記紀の天皇家中心のイデオロギーに幻惑されていた。その信条(Tennnology)を守ることのみ急のため、平明な人間の道理を敢然と踏み破り、捨て去って、顧みなかった。九州王朝の倭国こそ、1世紀から7世紀間、日本列島を代表した王者。8世紀以降倭国の分流であった近畿日本国が白村江で完敗した倭国を併合して、新たに日本国の代表者になった。

6)大嘗祭の断絶　平成2年。大嘗祭の一大盛儀が催された。マスコミ報道で未発の問題がある。天武2年(673年)、これは九州王朝の地で行われた。裏付けは大嘗祭の祝詞の文言にある。天孫降臨、11月卯の日、これを続けてきたのは、倭国だ。白村江の敗戦(663年)から700年の九州年号の途絶えるまで倭国の祭儀は続けられていた。

~~24　2~~~~2024－2－5(月)　14時から17時　601会議室~~

~~2－19(月)　14時から17時　602会議室~~－7―1(月)　14時から17時　601会議室

7―22(月)　14時から17時　603会議室

8－5(月)　14時から17時　601会議室

書式変更: インデント : 左 : 0 mm, 最初の行 : 0 mm

書式変更: インデント : 左 : 6.3 mm